

世界史

〔 I 〕 次の文章は、『シュリーマン旅行記 清国・日本』（石井和子訳、講談社学術文庫）の「訳者あとがき」の一部である（省略や一部書き改めた箇所がある）。この文章を読み、下記の問1～問10に答えなさい。解答番号は ～

シュリーマンは、^(a)1822年、北ドイツのノイブコーに牧師の子として生まれた。母親は彼が9歳のときに亡くなっている。一方、考古学に興味をもっていた父親は、幼いシュリーマンに、^(b)ホメロスの叙事詩やポンペイの悲劇などを語って聞かせたという。

シュリーマンの驚嘆すべき語学力はつとに有名だが、彼の少年時代はけっして恵まれたものではなかった。学校教育も満足に受けることができず、わずか14歳で小売店の小僧となって働きながら簿記の勉強をした。アメリカで運だめしをしようとしたが、不幸にも船は難破し、海に投げ出されたシュリーマンは九死に一生を得た。そのままドイツには戻らず、^(c)アムステルダムで糊口を凌ぐかたわら、フランス語、スペイン語等、次々とマスターしていった。

一方類まれな商才にも恵まれ24歳でアムステルダムの貿易商の職を得るや、早くも目を^(d)「東」のロシアにむけていた。例のごとく猛烈な独学でロシア語を勉強し、始めてからわずか6週間後には、モスクワのインディゴ（藍色染料）商人たちと、その国の言葉で商談をまとめたのだった。その成果を足がかりに^(e)ペテルブルクへ赴き、わずか1年で独立。自分の商館を開き、また^(f)ゴールドラッシュのアメリカに銀行を持つなど、国際的な大商人となって、巨万の富を築いた。

ところが^(g)1863年、41歳のとき、年来の夢であったトロイア発掘を実現すべく、すべての経済活動を打ち切ってしまう。

^(h)1865年3月、彼は世界漫遊の旅を志した。インドから海路、香港、さらに上海へ。以下、本書に綴られた中国（清国）と日本の旅となる。

この旅行記は、横浜港を離れ、太平洋上をサンフランシスコへ向かう、船中約50日のあいだに書き上げられたものである。その後、アメリカ東海岸からハバナ、メキシコを巡り、翌1866年、パリに落ち着いて、改めて考古学を勉強し、2年後に学位を取得した。

⁽ⁱ⁾トロイア遺跡発掘に成功したのは1871年、本書の旅から6年後のことである。

問1 下線部(a)の年より前におきた世界の出来事を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イギリス第1回選挙法改正 ② 七月革命 ③ ベルギーの独立
- ④ モンロー宣言（教書） ⑤ ワーテルローの戦い

問2 下線部(b)を含めた古代ギリシア文化に関して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イオニアのミレトスを中心に前6世紀に自然哲学が発達した。
- ② タレスは、万物の根源を「水」であると考えた。
- ③ 都市には公共建築物としてコロッセウム（円形闘技場）やパンテオン（万神殿）が建てられた。
- ④ 神々の系譜を整理した『神統記』を著わしたのは、ヘシオドスである。
- ⑤ ヘロドトスはペルシア戦争を題材に、トゥキディデスはペロポネソス戦争を題材に、それぞれ『歴史』を著わした。

問3 下線部(c)を含むオランダの独立時に関連した次の文 a・b の正誤を判断し、下記の指示に従ってマークしなさい。

- a と b がともに正しい場合は……①をマーク
- a と b がともに誤りの場合は……②をマーク
- a が正しく b が誤りの場合は……③をマーク
- a が誤りで b が正しい場合は……④をマーク

a スペイン王カルロス1世がカルヴァン派の新教徒の多いネーデルラントに対してカトリックを強制し、また重税を都市に課したため、諸州は自治権を求めてスペインに反抗し、ここにオランダ独立戦争が始まった。

b ユトレヒト同盟を結んだ北部10州は、1581年独立を宣言し、オラニエ公ウィレムを大統領とするネーデルラント連邦共和国を成立させた。

問4 下線部(d)のロシアでは当時、ニコライ1世（在位1825～1855）が統治していたが、彼に関わる出来事の組み合わせとして適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① デカブリスト（十二月党员）の乱鎮圧と農奴解放令の公布
- ② デカブリスト（十二月党员）の乱鎮圧とクリミア戦争の勃発
- ③ 農奴解放令の公布とポーランド分割
- ④ 農奴解放令の公布とクリミア戦争の勃発
- ⑤ ポーランド分割とデカブリスト（十二月党员）の乱鎮圧
- ⑥ ポーランド分割とクリミア戦争の勃発

問5 下線部(e)のペテルブルク（サンクト=ペテルブルク）はピョートル1世が建設した都市であるが、ピョートル1世に関して述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 彼の在位中に、プガチョフの反乱がおこった。
- ② 彼は即位すると、ロシアで初めてツァーリの称号を用いた。
- ③ 彼は、スウェーデンとの間に北方戦争をおこした。
- ④ 彼は、通商を求めてラクスマンを日本に派遣した。
- ⑤ 彼は、コサックの首長イェルマークの協力を得てシベリアに領土を広げた。

問6 下線部(f)のゴールドラッシュの舞台となったカリフォルニアを、アメリカはこの国から獲得したか。その国名を、次の①～⑥から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イギリス ② オランダ ③ スペイン ④ フランス
- ⑤ メキシコ ⑥ ロシア

問7 下線部(g)の年、アメリカは南北戦争のさなかであった。南北戦争に関連して述べた次の文 a・b の正誤を判断し、下記の指示に従ってマークしなさい。 7

a と b がともに正しい場合は……①をマーク

a と b がともに誤りの場合は……②をマーク

a が正しく b が誤りの場合は……③をマーク

a が誤りで b が正しい場合は……④をマーク

a イギリスとの結びつきが強い南部諸州は、自由貿易と奴隷制の存続をもとめ、一方イギリスに対抗する北部諸州は保護貿易と国内市場の統一をもとめ、互いに対立を強めた。

b 女性作家のホイットマンは、『アンクル=トムの小屋』を執筆して南部の奴隷制に反対した。

問8 下線部(h)のシュリーマンが訪れた当時の中国（清朝）は同治帝（在位1861～1875）が統治していた。彼の統治していた中国でおきた出来事を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

① アイグン条約の締結 ② アヘン戦争の開始 ③ 清仏戦争の開始

④ 太平天国の滅亡 ⑤ 日清戦争の開始

問9 下線部(i)のトロイア（トロヤ）の場所は下記の地図中のア～オのどれに当たるか。次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。 9



- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ ⑤ オ

問10 下線部(i)のシュリーマンや、イギリスのエヴァンズらによる発掘によって明らかにされたエーゲ文明に関して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- ① クレタ文明では、青銅器文化が栄えた。
- ② クレタ文明を代表するクレタ島のクノッソス宮殿は、城壁をもたない。
- ③ ミケーネやティルスなどでは、巨石の城塞王宮が建てられた。
- ④ ミケーネ文明で使用された文字は、線文字Aである。
- ⑤ ミケーネ文明の諸王国では、貢納王政がおこなわれていた。

〔Ⅱ〕近世以降のヨーロッパの国際体制に関する次の文章A～Cを読み、問1～問10に答えなさい。解答番号は ～

A 現代まで続く国際体制の原型が形成されたのは、^(a)宗教戦争として始まった を終結させた ^(b)ウェストファリア条約によって、ヨーロッパで主権国家体制が確立したことに始まる。これ以後、ヨーロッパではハプスブルク家に代わって、 家が優位になり、大陸の覇権を握ったため、大陸中心部ではフランス革命まで国際的には比較的安定した状態が維持された。

問1 に入る適切な語を、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問2 に入る適切な語を、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問3 下線部(a)の宗教戦争のきっかけになった出来事を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① カール5世によるヴォルムス帝国議会の召集
- ② フェルディナント2世によるベーメンのカトリック化強要策
- ③ シャルル9世治世下のサンバルテルミ虐殺
- ④ ルイ14世のナントの王令（勅令）廃止
- ⑤ エリザベス1世の統一法制定

問4 下線部(b)のウェストファリアとは、条約が調印された都市があった地方の名称である。この地方は現在のどこの国に属するか、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イギリス ② オランダ ③ スウェーデン ④ チェコ
- ⑤ ドイツ

B 19世紀初めのウィーン会議で、^(a)列強の指導の下に、国際社会の秩序を守ろうとする原則が定められた。会議に参加した の提唱した正統主義もその一つである。会議の結果成立したウィーン体制は19世紀半ばまで、既存の支配秩序を揺るがす民族運動や改革・革命運動を抑えようとしたが、成功しなかった。しかし、列強間の協議と合意による国際関係の調整システムは、一時的な中断を除いて、ほぼ第一次世界大戦前まで維持された。

問5 に入る適切な人名を、末尾の【語群】から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問6 下線部(a)の代表的な例にロシア皇帝が提唱した神聖同盟がある。しかし、すべてのヨーロッパの君主が参加したわけではなかった。神聖同盟に参加しなかった君主の国を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イギリス ② オランダ ③ スウェーデン ④ スペイン
⑤ フランス

C 第一次世界大戦後、戦前の列強体制の継続は難しくなり、^(a)一般的な原理による国際体制の構築がめざされた。新しい国際体制はヴェルサイユ体制と呼ばれ、^(b)国際連盟が中心的役割を果すはずであった。しかし、連盟には提唱国の^(c)アメリカ合衆国が参加せず、最初は^(d)敗戦国やソヴィエト＝ロシア（ソ連）は加盟を認められなかったため、ヨーロッパを中心とする組織にとどまった。

問7 下線部(a)の一般的原理には、ヨーロッパの民族自決権の承認がある。この原理にもとづいて第一次世界大戦後独立した新興国を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① アルバニア ② ギリシア ③ フィンランド ④ ブルガリア
⑤ ルーマニア

問8 下線部(b)の国際連盟の本部が置かれた都市を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

- ① ジュネーヴ ② チューリヒ ③ ハーグ ④ パリ
⑤ ローザンヌ

問9 下線部(c)のアメリカ合衆国の1920年代の状況について述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 19

- ① 男女平等選挙権が実現していた。
② 禁酒法が施行されていた。
③ 共和党出身の大統領が3代にわたって続いた。
④ 移民法によって、アジア系移民の入国が禁止された。
⑤ 戦前の債権国から債務国に転じ、景気は低迷していた。

問10 下線部(d)の敗戦国の一つドイツは、1920年代半ばになって国際連盟加盟を認められた。それにはドイツ外相の協調外交政策が貢献した。この外相を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。 20

- ① ケロッグ ② シュトレゼマン ③ ドーズ ④ ブリアン
⑤ ヤング

〔語群〕

- ① アレクサンドル1世 ② イタリア戦争 ③ オルレアン
④ 三十年戦争 ⑤ 七年戦争 ⑥ シャルル10世
⑦ シュタイン ⑧ タレーラン ⑨ ハノーヴァー
⑩ 百年戦争 ⑪ ブルボン ⑫ ホーエンツォレルン
⑬ メッテルニヒ ⑭ ユグノー戦争 ⑮ ロマノフ

〔Ⅲ〕アジアの各地域で生まれた著作に関する次の文章A～Eを読み、下記の問1～問10に答えなさい。解答番号は ～

A この著作は、「五十歩百歩」などの巧みな比喩を用いて、^(a)戦国時代の各国を遊説した人物の言論を記すが、性善説に根ざした王道政治が強調されている。

問1 この著作の名称として適切なものを、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問2 下線部(a)の戦国時代に関連して述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 戦国時代を代表する思想家に孔子がいる。
- ② 戦国時代には五覇と称される強国があった。
- ③ 戦国時代には青銅貨幣のほか、金貨や銀貨も鑄造された。
- ④ 戦国時代には法家が活躍し、秦の商鞅はそのひとりである。
- ⑤ 戦国時代の縦横家の論じた策を集めたのが『春秋』である。

B この著作は、^(b)グプタ朝の盛期にカーリダーサによって書かれた7幕の戯曲である。プル族の王とヒマラヤ山中の娘の数奇な恋愛を描き、サンスクリット文学の最高傑作とされる。

問3 この著作の名称として適切なものを、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問4 下線部(b)に関連して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① グプタ朝の最盛期は、チャンドラグプタ2世の治世の時である。
- ② グプタ朝ではヒンドゥー教が栄え、ヴァルナが成立した。

- ③ グプタ朝の美術様式は、ガンダーラ美術の様式を脱却している。
- ④ グプタ朝では仏教も盛んで、ナーランダー僧院がつけられた。
- ⑤ グプタ朝の都はパータリプトラであり、法顕も記録している。

C この著作は、(c)14世紀後半に、チュニス出身のイブン=ハルドゥーンによって書かれた。都市と遊牧民の関係を中心に歴史発展の法則性を論じている。

問5 この著作の名称として適切なものを、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問6 下線部(c)の14世紀のイスラーム国家として述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 14世紀半ばに、小アジアのオスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼした。
- ② 14世紀にティムールが建国し、中央アジアで勢力を伸ばした。
- ③ 14世紀の北インドでは、アイバクが奴隷王朝を始めた。
- ④ 14世紀のエジプトでは、マムルーク朝のサラディンが十字軍と戦った。
- ⑤ 14世紀にナスル朝が滅び、イベリア半島にはイスラーム国家はなくなった。

D この著作は、インド・イラン・ギリシア、そして(d)アッバース朝全盛期のバグダードなどの世界各地の説話が融合されて成立した。カイロで現在の形になったと考えられていて、アラビア語で書かれている。

問7 この著作の名称として適切なものを、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。

問8 下線部(d)のアッバース朝に関連して述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① アッバース朝は、アリーの子孫がウマイヤ朝を滅ぼしてたてた。

- ② アッバース朝の君主は、ウマイヤ朝のカリフに対抗してスルタンを名乗った。
- ③ アッバース朝においては、アラブ人の特権が次第に失われていった。
- ④ アッバース朝は中央アジアに進出したが、タラス河畔の戦いで唐に敗北した。
- ⑤ アッバース朝は、マムルーク朝によって滅ぼされた。

E この著作は魯迅が執筆したもので、(e) 文学革命中の1918年に発表された。手記という形式を用いて、伝統、特に儒教思想を徹底的に批判し、中国近代文学の出発点となったとして、評価が高い。

問9 この著作の名称として適切なものを、末尾の〔語群〕から一つ選び、その番号をマークしなさい。 29

問10 下線部(e)の文学革命に関連して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 30

- ① 文学革命は新文化運動と重なる部分が多い。
- ② 文学革命においては、白話で文学を表現しようとする主張がおこなわれた。
- ③ 文学革命と深く関わった雑誌に、『新青年』がある。
- ④ 文学革命の中心人物の一人陳独秀は、のち中国共産党創設に関わった。
- ⑤ 文学革命は、五・四運動の精神を継承しておこった。

〔語群〕

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------|
| ① 阿Q正伝 | ② ウパニシャッド | ③ 狂人日記 | ④ 紅樓夢 |
| ⑤ 三大陸周遊記 | ⑥ シャクンタラー | ⑦ シャー＝ナーメ | |
| ⑧ 集史 | ⑨ 世界史序説 | ⑩ 千夜一夜物語 | |
| ⑪ マハーバーラタ | ⑫ 孟子 | ⑬ ルバイヤート | |
| ⑭ 老子 | ⑮ 論語 | | |

〔Ⅳ〕アフガニスタンの近・現代の動向に関して述べた次の文章を読み、下記の問1

～問10に答えなさい。解答番号は ～

18世紀の前半、アフガニスタンは、イランの^(a)サファヴィー朝崩壊後、トルコ系のアフシャール朝のナーディール=シャーによって一時その支配下におかれた。彼が暗殺されると、ドゥッラーニー朝がおこって民族的独立は達成されたものの、その後諸部族の抗争を招き、19世紀前半にはかかわってバーラクザーイー朝が創始された。バーラクザーイー朝はカーブルを中心にアフガニスタン支配の実権を握ったが、南下の機会をうかがうロシアとイギリス支配下のインドの勢力のはざまにおかれ、アフガニスタン自立への道はなお遠かった。

^(b)19世紀前半から20世紀前半にわたる3次のアフガン戦争の結果、ロシア、イギリスの干渉を離れて独立をかちえたアフガニスタンは、第2次大戦後は国王のもとに、^(c)非同盟を維持したが、隣国パキスタンとはパシュトゥーン族の帰属をめぐる対立関係にあった。1973年のクーデタで国王が退位すると、大統領制のアフガニスタン共和国、革命評議会議長が指導するアフガニスタン民主共和国がつぎつぎに成立したが、どれも体制の安定にはいたらず、左翼急進主義のアミン政権は、^(d)1979年12月、ソ連の介入によって打倒された。さらにソ連は親ソ的なカルマル政権を支援するため正規軍を派遣したことから、^(e)アメリカや西側諸国は強く反発し、ソ連への抗戦を実行する反政府ゲリラを援助し、局地的な対ソ連戦争が始まった。

その後1985年、ソ連では共産党書記長に就任した がゆき詰まりの状況を打開するために、 (情報公開)による言論の自由や、政治、社会体制を全面的に見直す (改革)、さらに対外的には を掲げて、東欧やアメリカ合衆国との協調姿勢に転じた。1986年4月、ウクライナの でおこった史上最悪の原子力発電所の事故はこの改革の機運に打撃を与えたが、1988年3月の新ベオグラード宣言によって社会主義圏でのソ連の指導性が否定されると、これがそのまま^(f)翌89年の東欧革命へとつながった。また、^(g)88年4月のジュネーヴでの和平協定調印によって、ソ連軍のアフガニスタンからの撤退が始まり、89年2月に完了した。

問1 下線部(a)について述べた次の文 a・b の正誤を判断し、下記の指示に従って、その番号をマークしなさい。 **31**

- a と b がともに正しい場合は……①をマーク
- a と b がともに誤りの場合は……②をマーク
- a が正しく b が誤りの場合は……③をマーク
- a が誤りで b が正しい場合は……④をマーク

- a この王朝は、イスラーム神秘主義教団の指導者イスマーイール1世によって16世紀初頭に建国された。
- b この王朝は、スンナ派を国教とし、今日のイラン、イラクにおけるスンナ派の基礎を固めた。

問2 下線部(b)に関して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。ただし、年次に誤りはないものとする。 **32**

- ① 第1次・第2次アフガン戦争は、イギリスがロシアの南下に対抗しておこなったアフガニスタンへの侵略戦争であった。
- ② 第1次・第2次アフガン戦争で、イギリスはいずれもアフガン諸部族民のゲリラ戦に苦戦した。
- ③ 第2次アフガン戦争後のイギリスとロシアの間の権益問題は、1907年の英露協商において取り上げられた。
- ④ 第2次アフガン戦争の結果、イギリスはアフガニスタンの保護国化に失敗した。
- ⑤ 第3次アフガン戦争は、第1次大戦後、アフガニスタンのインドへの攻撃がその口火となった。

問3 下線部(c)に関連して述べた次の①～⑤から、誤っているものを一つ選び、その番号をマークしなさい。ただし、年次に誤りはないものとする。 **33**

- ① 非同盟政策は、1950年代初めに、インドの首相ネルーがその外交姿勢として唱えたものである。

- ② ネルーの非同盟政策は、1954年のネルー・周恩来会談で出された平和五原則の共同声明には含まれていない。
- ③ 非同盟に同調する諸国による、第1回非同盟諸国首脳会議が、1961年、ベオグラードで開催された。
- ④ 中国は非同盟諸国首脳会議の主要加盟国として、今日まで重要な役割を担ってきた。
- ⑤ 非同盟政策は、東西の軍事ブロックに加わらず、他国の影響を排した自主的外交をかかげる。

問4 下線部(d)の年には、1月のイラン革命によってイラン=イスラーム共和国が成立し、3月にはエジプト=イスラエル平和条約が調印されている。これに関連して述べた次の文 a・b・c の正誤を判断し、下記の指示に従って、その番号をマークしなさい。ただし、年次に誤りはないものとする。 34

- a・b・c がすべて正しい場合は……①をマーク
- a と b が正しく c が誤りの場合は……②をマーク
- a が正しく b と c が誤りの場合は……③をマーク
- a が誤りで b と c が正しい場合は……④をマーク
- a と b が誤りで c が正しい場合は……⑤をマーク
- a・b・c がすべて誤りの場合は……⑥をマーク

- a イラン=イスラーム共和国の成立を宣言した最高指導者ホメイニは、イスラーム教を国家原理とし、対外的には反米、親ソ、親アラブの姿勢に転じた。
- b エジプト=イスラエル平和条約は第4次中東戦争終了後の和解策として、フランスの仲介により締結された。
- c エジプト=イスラエル平和条約締結の結果、イスラエルが占領していたシナイ半島は、1982年、エジプトに返還された。

問5 下線部(e)に関連して述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。ただし、年月に誤りはないものとする。 35

- ① ソ連の行動を批判してアメリカをはじめとする中国や日本など多くの国々が、1980年、モスクワで開催された国際オリンピック大会への参加をボイコットした。
- ② アメリカ合衆国は、1979年6月に米ソ首脳会談で調印した第2次戦略兵器制限交渉（SALT II）を推進し、1985年に条約を批准した。
- ③ 核兵器搭載可能な中距離ミサイルの廃棄と製造中止をとりきめる中距離核戦力（INF）全廃条約は、1981年から米ソ間で交渉が進められたが、成立にはいたらなかった。
- ④ アフガニスタンに侵攻したソ連軍は、反政府ゲリラに対してつねに優勢をたもち、撤退するまでアフガニスタンの全土を制圧した。
- ⑤ アフガニスタンでソ連軍に抵抗した反政府ゲリラは、この戦いを異教徒に対するイスラーム教徒の聖戦としてとらえ、ヒジュラと呼んだ。

問6 アに入る適切な人名を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。 36

- ① エリツイン ② コスイギン ③ ゴルバチョフ ④ プーチン
- ⑤ ブレジネフ

問7 イ・ウ・エに入る語の組み合わせとして適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、その番号をマークしなさい。 37

- ① イ：新思考外交 ウ：グラスノスチ エ：ペレストロイカ
- ② イ：新思考外交 ウ：ペレストロイカ エ：グラスノスチ
- ③ イ：グラスノスチ ウ：新思考外交 エ：ペレストロイカ
- ④ イ：グラスノスチ ウ：ペレストロイカ エ：新思考外交
- ⑤ イ：ペレストロイカ ウ：グラスノスチ エ：新思考外交
- ⑥ イ：ペレストロイカ ウ：新思考外交 エ：グラスノスチ

問8 に入る適切な地名を、次の①～⑤から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① オデッサ ② キエフ ③ セヴァストーポリ ④ チェルノブイリ
⑤ ハリコフ

問9 下線部(f)に関連して述べた次の①～⑤のうち、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。ただし、年月に誤りはないものとする。

- ① ポーランドでは、ソ連の支援の下で労働組合「連帯」を指導したワレサが1989年7月、東欧革命の中で大統領に就任した。
② 東ドイツでは1989年10月、社会主義統一党（共産党）書記長ホネカーが退任し、翌11月にベルリンの東西を隔てた壁が開放された。
③ ルーマニアでは、治安警察によるデモへの無差別発砲事件を発端として全土にデモが拡大し、政権は崩壊し、独裁者ヤルゼルスキ夫妻は処刑された。
④ 北大西洋条約機構（NATO）に対抗する軍事同盟として1949年設立されたCOMECONは存在理由を失い、1991年解散した。
⑤ 社会主義圏の経済協力機構として1955年に組織されたワルシャワ条約機構は、冷戦の終結とソ連の主導権の放棄により、1991年に解体された。

問10 下線部(g)に前後する頃のソ連の動向を述べた次の①～⑤から、正しいものを一つ選び、その番号をマークしなさい。ただし、年月に誤りはないものとする。

- ① ソ連における急激な改革により、連邦構成国は、連邦からの離脱の動きを抑制するようになった。
② 1991年8月、連邦体制の維持を主張する保守派のクーデタが失敗したが、共産党はそのまま存続した。
③ 1991年12月、ウクライナ、グルジアを除く、ロシア連邦を中心とする旧ソ連の9つの共和国が独立国家共同体（CIS）を結成した。

- ④ 独立国家共同体（C I S）の結成をもって国家としてのソ連邦は消滅し、大統領も辞任した。
- ⑤ チェチェン共和国の民族紛争は、2000年、新たに選出された大統領のもとで解決をみた。